スピン・オフ小説　あんたはすごい！

水本爽涼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
スピン・オフ小説　あんたはすごい！

【Ｎコード】
Ｎ３２１０Ｘ

【作者名】
水本爽涼

【あらすじ】
時間研究所に登場した塩山満のスピン・オフ小説。

53回

駅が近づいた時、禿山(はげやま)さんのことを思い出した。明後日(あさって)の朝が仕事終わりになる彼と、今の私の動きを繋(つな)ぎ合わせてみると、このまま家に帰り、明日の朝早く家を出て車を駐車場へ取りに行く。そして、A・N・Lへ寄り、そのまま出勤する。これだとピッタリ一日ずれることになる。ならば、明日は車を取りに行かずにそのまま置いておき、行き帰りとも電車通勤にすればいいか…。取りに行くのを明後日の早朝にすれば禿山さんに出会うことが出来る…。幸い、六時間二百円の格安な駐車場だから八百円で事足りる…などとめぐっていると前方に眠気(ねむけ)駅が見えてきた。

帰宅すると急に腹が空いてきた。A・N・Lで済ませた夕飯が軽過ぎたか…と思いながらカップ麺で空きっ腹を満たした。ソファーでしばらく寛(くつろ)いでいると、みかんで見た幻覚のことがふたたび頭を擡(もた)げてきた。この時点で私は、今日のことは幻覚だったのだ…と、無理やり自分に云い聞かせていた。というのも、ママ、早希ちゃんとも見えないものが、どういう訳か私だけに見えたからだ。風邪っ気に加え、目も疲れているのか…と、私は目薬をさした。いつもなら二時間ばかりを雑事に費(つい)やすのだが、この日は早めに寝室へ入り、ブランデーを引っかけて眠った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3210x/

スピン・オフ小説　あんたはすごい！

2012年1月12日01時02分発行